

## 大学入学共通テストの日程

文部科学省は6月19日付けで「令和3年度大学入学者選抜実施要項について」を、大学入試センターは6月30日付けで「大学入学共通テストの実施要項」を発表しました。

これらによると、共通テストの実施期日にコロナ禍による学業の遅れに対応するため、第2日程が設けられました。

### ○ 第1日程

令和3年1月16日（土）、17日（日）

### ○ 第2日程

令和3年1月30日（土）、31日（日）

第1日程は当初の予定どおりの日程です。第2日程は、病気や事故などのやむを得ない事情で受験できなかった受験生のために従来も設けられていた追試験の日程ですが、これを、コロナ禍による学業の遅れのため受験が適当であると校長が認めた場合に、現役生が予め選択して受験できる、というものになっています。全ての都道府県で受験できるとのことです。

第2日程という選択肢が加わったことで、いろいろな考えや思惑が生じることになってしまいました。選択肢と書きましたが、学業の遅れのため受験が適当であると校長が認めた場合という条件のようなものが付いていますが、今後、試験会場や問題用紙を準備するため、第2日程を希望する生徒数などについて希望調査をするということですから、ほとんど選択肢です。

たしかに、第2日程の場合、共通テストに向けた準備を2週間延ばすことができます。また、第1日程の問題を見てから対策をとるということもある程度できるかもしれません。

しかし、大学ごとに行われる個別試験までの期間は短くなりますし、2月から始まる私大入試がすぐそこに迫っている日程となります。さらに、万一この第2日程を病気等で受けられなかった場合の特例追試験は2月13、14日の実施です。前期日程のわずか10日ほど前というスケジュールになります。

新たに設定された日程に対して、メリット、デメリットというもおかしな話ではありますが、どうしても比較して考えてしまいたくなります。どちらのほう有利なのだろうか。しかし、問題の難易度も含めてまともな比較はで

きないと思いますので、あまり神経を使って考え過ぎない方がいいでしょう。実施された後にそれぞれの平均点等が発表されたとしても、受験する人たちが異なるのですから比較のしようがありません。

選択肢が設定されると、どちらを選ぼうかという意識が働きやすくなり、意地でも学習の遅れを挽回してやるぞというような意気込みが薄らいでしまわないかと心配になります。自分の目標・スケジュールに基づいて、しっかり学力をつけていくという基本を疎かにしないようにしてください。

## 感染症・熱中症に要注意！

新型コロナウイルスが人から人へ移る感染経路としては、飛沫感染や接触感染などが考えられています。人と人の距離が近くなれば、当然、感染するリスクは上がります。

緊急事態宣言が解除され、経済社会活動が再開されていますので、東京都では新型コロナウイルスに新たに感染する人の数が100人以上の日が続くなど、再び増加傾向です。

改めて感染防止対策の徹底をお願いいたします。毎朝、毎夕の家庭における検温、身体的距離の確保、マスクの着用、手洗い、換気、水分補給等の基本的な感染症対策を徹底してください。「健康観察記録表」の記入も引き続きお願いいたします。

熱中症にも注意が必要です。7月1日から、関東甲信地方の1都8県で「熱中症警戒アラート」が先行的に実施されています。このところアラートばかりですが、こうした警戒が発表された場合はもちろんのこと、その前の段階でも、今年は感染症対策でマスクを着用していることが多くなっていますので、気をつけなければなりません。高温や多湿といった環境下でのマスク着用は、熱中症のリスクが高くなるおそれがありますので、屋外で人と十分な距離（少なくとも2m以上）が確保できる場合には、マスクをはずしても大丈夫です。また、のどが渇いていなくてもこまめな水分補給を心がけてください。周囲の人との距離を十分にとれる場所で、マスクを一時的にはずして休憩することも必要です。